

海外安全対策情報平成26年度第3四半期（10～12月）

1 社会・治安情勢

- （1）日常的にデモや道路封鎖は首都及び郊外で発生しているものの、社会不安をもたらす大事件は発生していない。
- （2）治安の悪さが大きな社会問題となる中、現政権は軍と警察の連携を強化し、治安が改善しないグアテマラ県を中心に治安回復作戦を継続しており、統計上、犯罪件数は僅かずつ減少しているもの治安回復上の決定的な打開策とはなり得ていない。
- （3）国家文民警察のデーターによると、2014年（1月～12月）の犯罪被害による死亡者数は4,998人（前年は5,252人、前年比4.8%減）と統計上では減少傾向にあるが、決定的な治安改善には至っていない。
- （4）対日感情については良好である。

2 一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

- （1）国家文民警察の発表によると、第3四半期の当国における総犯罪発生件数は8,420件と前年第3四半期の8,630件と比較して2.4%の減少となったが、殺人件数は1,277件で、前年度第3四半期の1,200件から6.4%の増加を記録し、その内銃器による殺人事件は1,066件で前年同時期の940件から26.0%も増加する等、全般としては、依然として治安回復の兆しは見られない。なお、第3四半期における犯罪種別の内訳は以下のとおり。

殺人	1,277件（前年比	6.4%増）
傷害	1,511件（	2.0%減）
強盗・窃盗	4,156件（	0.4%増）
強姦	146件（	9.9%減）
誘拐	2件（	81.8%減）
行方不明	922件（	10.3%減）
家庭内暴力	406件（	25.4%減）

（2）銃器の蔓延

当国では、銃器が容易に入手できるため、発砲事件も頻繁に発生しており、殺人、強盗、短時間誘拐の殆どに銃器が使用されている。国家文民警察の報告によると、第3四半期で治安当局が取り扱った殺人事件1,277件のうち、銃器を使用した事件は1,066件（全体の83.5%）、同じく傷害事件1,511件のうち銃器を使用した事件は1,023件（67.7%）に達しており、依然として邦人がこれら銃器を使用した犯罪に遭遇（巻き込まれる）する危険性は極めて高い。

(3) 邦人の被害事案

関連情報なし。

(4) 邦人以外の被害事案（代表的事例のみ）

ア 10月7日、グアテマラ市第9区において、路線バスが襲撃され、バス運転手が負傷するという事件が発生した。

イ 10月13日、グアテマラ市第5区において、スクールバスが襲撃され、同乗中の運転手及び児童を降ろし、バス奪って逃走する事件が発生したが、負傷者は出なかった。

ウ 10月23日午後、グアテマラ市第14区において、路線バス襲撃され、車掌が銃で撃たれ負傷するという事件が発生した。

エ 11月3日夜、ケツアルテナンゴ市付近で薬局店グループを経営するアジア系外国人が誘拐されるという事件が発生した。

オ 11月17日、グアテマラ市第13区において、路線バスが強盗被害に遭い、犯人が発砲した際に、乗客2名が負傷するという事件が発生した。

カ 12月11日、グアテマラ市第14区において、若い男性の射殺体が発見された。

キ 12月12日夜、アンティグア市において、外国人旅行客4人が強盗被害に遭うという事件が発生した。

ク 12月17日、グアテマラ市第9区のレフォルマ通りにおいて、運転中の男性がバイクの2人組に拳銃で襲撃され負傷するという事件が発生した。

3 誘拐・脅迫事件

2014年は40件の誘拐事件（被害届に基づく当国警察発表数値）が発生した。資産家に限らず、一般市民や外国人がターゲットとなり、その大半は営利誘拐である。被害を届け出ても犯人に対する処罰や被害の補償を望めないばかりか報復される恐れもあり、犯人に身代金を支払い、警察に被害届を提出しないケースが多い。また、日本人（東洋系外国人）は一般的に裕福と見られているので、ターゲットにならないよう日頃から注意する必要がある。また日系企業も脅迫を受ける可能性は十分にある。

4 日本企業の安全に関わる諸問題

日本企業内において労働条件等を巡るストライキは発生していないが、引き続き各種社会運動の動向には注意を要する。また、インターネットの普及により急速にグローバル化が進み、ソーシャルネットワークを使用した予期せぬ示威活動が行われる可能性もあるので注意が必要である。（了）